

持続可能な開発目標(SDG)14実施支援国連会議 森国際協力局審議官スピーチ(骨子)

【冒頭】

2030アジェンダの実施に弾みをつけるSDG14実施支援国連会議の開催を歓迎。本会議開催に向けたフィジー及びスウェーデンのイニシアティブに感謝。また、太平洋島嶼国としては初めて国連気候変動枠組条約締約国会議(COP)の議長を務めるフィジーに祝意を表明。我が国は、パリ協定の着実かつ完全な実施の実現に向け、COP23の議長国フィジーを全面的に支持する。

また、本会議で採択される予定の「Call for Action」の作成に尽力した共同ファシリテーターのシンガポール及びポルトガルにも感謝。

四方を海に囲まれた島国であり、海洋の恩恵を受けてきた我が国は、本会合を、海洋環境及び資源の保全及び持続可能な利用に関連する喫緊の課題に国際社会が取り組む重要な機会と認識。

かかる観点から、我が国は、本会議開催に向けた2015年国連総会決議の共同提案国に加わるとともに、小島嶼開発途上国(SIDS)及び後発開発途上国(LDC)からの本会議への参加支援として、信託基金に4.4万ドルを拠出した。

【SDGs全体】

SDGsの実施は国際社会共通の目的。我が国としても、安倍晋三総理大臣を本部長とするSDGs推進本部の下、国内・国外の双方で率先してSDGsの達成に取り組んでいるところ。

本会議はSDGsの中の特定の目標の下に開催される初の国際会合。17あるSDGは相互に関連しているが、これはSDG14の主なテーマである海洋保全が喫緊に対応すべき地球規模課題であると認識されていることの証左。

とりわけ我が国は「海洋ごみ」、「海洋酸性化」、「持続可能な漁業」及び「SIDS諸国への支援」を重要視しており、これらの分野を中心に合計11件の「自主的な取組」(Voluntary Commitments)を登録。

【SDG14個別テーマ】

【海洋ごみ 目標14.1】

海洋汚染及び海洋ごみは国境を越える深刻な問題であり、世界的な対策が必要。海洋ごみの約8割は陸域由来と言われていることから、各国が廃棄物管理に関する包括的な戦略を立てることが効果的な海洋ごみ対策の上で重要。我が国は、廃棄物管理の改善のため、「環境上適正な技術」を活用しつつ、3R(リデュース, リユース, リサイクル)政策を積極的に推進するとともに、特にアジア太平洋地域での3R推進フォーラム開催等を通じ

て、途上国での3Rの取組を支援してきた。

昨年我が国が議長国を務めたG7伊勢志摩サミットにおいても、海洋ごみに対処するとのコミットメントを再確認した。3R及び資源効率性に関する取組は、陸域を発生源とする海洋ごみ、特にプラスチックの発生抑制及び削減に大きく寄与すると認識。

【海洋酸性化 目標14.3】

気候変動による海洋への影響については科学的知見が十分に蓄積されていないことから、海洋酸性化により効果的に対処するためには調査・研究の推進が重要。我が国は、様々な国際的な取組と連携しつつ、海洋環境を取り巻く脅威に対する政策立案に必要な科学的知見を拡充するために、海洋観測や気候変動による影響予測等の研究開発に取り組んできている。今後も、海洋酸性化によるプランクトンへの影響に関する定量評価や、新たな観測技術やセンサーの開発に引き続き取り組んでいく。

【持続可能な漁業 目標14.4】

水産資源は無尽蔵ではなく、適切な資源管理のもとで持続的に利用することが可能。我が国は、地域漁業管理機関を通じた国際的な水産資源の管理と持続可能な利用を推進するための活動に積極的に参画。

我が国は、違法、無報告、無規制（IUU）漁業の根絶も重視。5月19日には、違法漁業防止寄港国措置協定を締結したところ、未締結国に対し、これに続くよう呼びかける。

【SIDS】

SDGsの達成には、特にSIDSやLDC諸国の能力開発・人材育成が重要。日本は、2014年9月にサモアで開催された第3回SIDS国際会議において、2015年からの3年間で5000人を超えるSIDS各国における人材育成支援を表明し、2016年度末で既に4000人を超える人材育成を達成したと推計。

【PALM】

本年は、太平洋・島サミット（PALM）が20周年を迎える。1997年の第1回以来、PALMIは、我が国と太平洋島嶼国との間の様々な分野における協力推進に貢献してきた。2018年5月に行われる第8回PALMIにおいて、海洋及び海洋資源に関する課題も議論されることを期待する。

【総括】

本会議で採択される「Call for Action」に従って全てのステークホルダーがSDG14の実施に積極的に取り組むことを期待。我が国も「自主的な取組」を着実に実施し、SDGs

全体の一層の推進を図る決意。

SDGsの個々の目標は、それぞれが単体で達成されるものではなく、互いに関連していることから、分野横断的に様々な目標を統合する連関的なアプローチが必要。本会議で実りある議論がなされ、その成果がSDG14のみならず、SDGs全体の達成に向けた大きな一歩となることを期待。

(了)